

令和5年度 事業判定結果報告

令和5年12月1日

志木市事業判定会

【事業判定会】

- 1 開催日時
令和5年11月12日（日） 午前10時00分～午後3時20分
- 2 ところ
志木市役所 1階市民ホール
- 3 対象事業及び概要

No.	担当課	事業名称及び事業概要	担当課の要求
1	保育課	<p>すくすくしきっ子事業</p> <p>発達の遅れや子育てに不安があるなどの継続的な支援が必要な家庭を対象に、週1、2回定期的に乳幼児を預かるとともに、保育士が保護者と面談を行う継続的な支援を実施する。保護者の不安軽減や育児疲れの軽減、虐待の予防・早期発見が期待できる。</p>	新規
2	子ども支援課	<p>ヤングケアラー家事支援事業</p> <p>ヤングケアラーを支援するために、家事支援を行うヘルパーを派遣し、ヤングケアラーの日常生活における負担を軽減する。また、今後の家庭状況の改善に向けて働きかけを行う。</p>	新規
3	産業観光課	<p>トランスボックスアート化事業</p> <p>中心市街地活性化基本計画に基づく出歩きたくなるまちづくりの一環として、トランスボックス（電力会社の地上給電設備が収納されているボックス）に観賞用のアートを描き、にぎわい創出に資する公共空間を形成する。</p>	新規
4	生涯学習課	<p>大小合併門樋復元事業</p> <p>国道254号バイパス工事に伴い解体撤去され、現在部材として保管されている大小合併門樋について、宗岡地域の治水の歴史を理解する上で重要な文化財であることから、復元工事を行い活用していく。</p>	新規

【判定結果 総括表】

事業判定会評価	事業数
担当課の要求どおりで良い	1
事業内容を一部見直す	1
事業内容を抜本的に見直す	2
担当課の要求を認めない	0

【判定結果 個別事業】

事業No.1 事業名： すくすくしきっ子事業
担当課： 保育課

1. 判定結果

担当課の要求どおりで良い

2. 事業判定会コメント

子育て世代への支援はニーズが高く、当該事業については、積極的に取り組むべきと考えます。ただし、新規の事業であり、手探りの部分が多いことは理解しますが、他団体のモデル事業をそのまま制度化しているように感じました。自発的な行動が取れない家庭へのアプローチをどのように取り組んでいくか、また、保育士・健康増進センターとの連携方法も含め、志木市のニーズや特徴を捉えた事業となるように実施方法を工夫してください。

ゼロから構築するモデル事業であるからこそ、志木市における課題を深掘りし、それに対応した取組を具体化することにより、志木市ならではの事業として実施してください。

3. 自由意見

- ・健康増進センターとの連携を主と言いつつも、対象として、子どもの発達等に心配がないにも関わらず不安を持つ親まで広く想定しており、事業規模と想定範囲が乖離しているように感じました。ニーズをしっかりと絞り込まないと、掲げる理想と事業内容にギャップが出てしまうと考えます。どこにポイントを置いて進めるべきか、有効に事業を行っていくためにはもっと詰めるべきと考えます。
- ・他の自治体の事例が少なく、手探りの部分も分かりますが、モデルケースだからこそ、他モデルにとらわれないで事業を作り上げてほしいです。
- ・支援を必要とする方にとって素晴らしい事業と考えます。一方で、自発的に行動が取れない家庭に対するアプローチの仕組みもしっかりと構築していただきたいです。
- ・保育士や健康増進センターとの連携について、もう少し具体的に詰めた方が良いでしょう。
- ・大変難しい問題であり、慎重に事業を進めていく必要があることから、まずはモデル事業として徐々に推進しても良いと思います。
- ・子育て家庭の支えとなる良い事業だと思います。多くの親が気軽に利用できる事業にしていきたいです。
- ・少子化が進んでいる中、子育て家庭に対する支援は非常に良いと思います。志木市では、健康増進センターによる訪問相談をはじめとする、さまざまな子育て支援を手厚く実施していますが、もっと多くの市民が、市による子育て支援があることを認識し、なんでも相談してくれる環境になれば、子育てがより良いものになると思います。
- ・自ら声をあげることができない家庭への支援は大事だと思います。
- ・定員（1園につき1日5人）や予算は、来年度以降、実態にあわせ、見直してほしいと思います。
- ・子育てに心配がある状況を隠してしまう親も多いと思うので、同じ悩みをもつ仲間を見つけることが難しいと思います。この事業をきっかけに保護者同士の情報交換の場も提供できると良いと思います。
- ・0才児についても、家にこもりがちの子育て家庭への支援を、保護者と同伴での通園も含めて検討いただきたいです。
- ・モデル事業だから、手探りの中とりあえずやってみようという提案内容で、課題への具体的な取組が伝わらなかったです。課題を整理し、志木市としてどのように進めていくのか具体的なところまで作り込んでほしいです。

事業No.2

事業名： ヤングケアラー家事支援事業
担当課： 子ども支援課

1. 判定結果

事業内容を一部見直す

2. 事業判定会コメント

ヤングケアラーという社会的課題を解決するうえで、本事業はきっかけづくりとしての役割を果たし、必要な事業であると考えますが、実態調査の結果検証及び他自治体での事例検証を行ったうえで、志木市版のヤングケアラー対策事業を構築する必要があると考えます。

また、事業実施にあたっては、ヤングケアラーの家庭環境改善に向けて関係機関との連携の充実を図ってください。

さらに、国の実態調査の結果では中学生の17人に1人がヤングケアラーであると発表されていることと比較すると、担当課提案の制度利用者想定件数は少なく、積算根拠が乏しいと考えます。制度利用者の想定件数については、実態調査の結果などを踏まえて再度検証してください。

3. 自由意見

・ヤングケアラーという社会的課題を解決するうえで、きっかけづくりとしての意義が大きい事業と考えますが、ニーズに対して予算積算が妥当かさらなる精査を求めます。

・ヤングケアラーへの認知度が上がるための事業も並行して実施した方が良いと考えます。
・対象世帯数の調査や、他市事例等の情報収集及び分析が不十分と考えます。志木市版のヤングケアラー対策事業が全国のスタンダードとなるように事業構築してほしいです。

・今後ヤングケアラーは増加していく可能性があることから、本事業はヤングケアラー解消のきっかけ作りとして効果があると考えます。

・他市や当事者との意見交換により、よりよい事業形態を構築してほしいです。
・他自治体に先駆けて、志木市がヤングケアラー事業を実施するのは大変ありがたいと感じます。各家庭の事情を踏まえた事業であり、個人情報への配慮が必要となりますが、対象家庭から個人情報利用の同意を得るなどして、関係機関での情報連携を充実させてほしいです。

・保護者の理解を得るための工夫についても検討してほしいです。
・ヘルパーによる支援を実施している期間中に根本原因を改善できるように関係機関との連携を充実してほしいです。

・なるべく早く支援が必要な家庭に行政が気付き、必要な支援を提供できるように情報収集を充実させてほしいです。

・同様の支援サービスを実施している自治体の状況を踏まえて、事業構築をしてほしいです。

・実態調査の結果が出ていないため、判断が難しいと考えます。

・この支援事業により、家庭環境が改善されるかどうかは分かりませんが、実施済みの自治体の結果などを分析のうえで事業を実施してもらいたいです。

・小学生未満の子どもに対する支援の必要性の調査は、難しいと感じます。

・ヤングケアラーへの支援は重要と考えますが、想定している10世帯という対象世帯数が適正なのか再度検証が必要と考えます。

・家事支援はきっかけづくりとしての位置づけということでありましたが、家庭と接することになるので、専門のカウンセラーの配置が必要だと感じました。

・専門家の協力が必要だと思うので、他の関係機関との連携を強化して、事業を進めてもらいたいです。

・家事支援だけで満足せず、ヤングケアラーの子どもたちの家庭環境が少しでも良くなるための支援体制ができることを望みます。

事業No.3

事業名： トランスボックスアート化事業
担当課： 産業観光課

1. 判定結果

事業内容を抜本的に見直す

2. 事業判定会コメント

トランスボックス（地上給電設備）にアートを描くだけでは、来訪者の回遊性の向上やにぎわい創出への効果は期待できないと考えます。例えばスタンプラリー等のソフト事業と連携するなど、他のにぎわい施策との相乗効果が得られるような手法を念頭に再度検討してください。その際には、トランスボックスアート化事業を先行して考えるのではなく、中心市街地全体におけるにぎわいづくりのコンセプトを明確にしたうえで、その中の事業の一つとして考えてください。

また、本来の目的である志木駅東口からいろは親水公園への人流を増やすという観点から、特定のエリアに集中してトランスボックスアートを整備するのではなく、エリア全体にバランスよく配置するなど、整備箇所についても再度検討してください。

3. 自由意見

- ・人の回遊促進という原点に立ち返って考えると、中心市街地の3つのエリアにそれぞれのコンセプトを設定することとした場合であっても、同時期に実施すべきと考えます。
- ・「中心市街地活性化基本計画」において、トランスボックスアート化事業のような部分的な取組だけでは人の回遊は生まれません。トランスボックスアート化事業と同時期に他の事業を連携してスタートさせないと効果は見込めないと思いました。
- ・トランスボックスアート化事業がにぎわい創出になるということに対して疑問が残ります。
- ・ターゲットの対象を明確化し、それに対してどのようにアプローチをしていくのかを検討してほしいです。
- ・回遊させるためには、トランスボックスアート化事業に付随する+αの仕掛けが必要だと思えます。
- ・地元商店会との打ち合わせが具体的にされていないうえ、アートだけの事業実施は難しいと考えます。また、市民の通勤経路等を現在利用している裏の通りからバス通りへ変更するのは難しいと考えます。
- ・アートの応募方法等、地元商店街等を巻き込んでの内容の見直しが必要だと感じました。
- ・トランスボックスアート化事業を実施するのであれば、地元活性化の観点で、市内の学校や市民によるアートの製作を希望します。
- ・中期間に渡って設置するのであれば、エリアを限定することなく、均等に設置し、徐々に設置密度を上げる方がよいと考えます。
- ・志木市の魅力を発信するツールでもあるので、小・中学生の協力や市民から提供される作品の方がよいと思います。
- ・双葉町、いろは商店会は商店が減ってしまい、にぎわいが減少してしまったように感じます。また、志木駅東口から中央通停車場線に出る導線が悪いと感じます。トランスボックスアートではなく、商店を増やすなど、志木駅東口から中央通停車場線へ誘導する施策を考えてほしいです。来訪者が楽しめているいろは親水公園まで足を運びたいものが必要と感じます。
- ・中央通停車場線に商店（子どもが行ける駄菓子屋や文具店等）を誘致してください。
- ・トランスボックスアート化には民間企業の協賛をいただくなど事業費節減を検討していただきたいです。
- ・にぎわいづくりの事業は大事だと考えますが、アートだけでは人流を増やすための施策として弱いと感じます。
- ・トランスボックスアート化事業だけでは、人流を増やすことはできないので、目的地となるような商店を増やしたり、スタンプラリー等の歩くことを促すイベントを増やしてほしいです。
- ・投票ゴミ箱、リサイクルステーションの設置等、SDGsを含めたにぎわいづくりを考えるのもよいと思います。

事業No.4

事業名： 大小合併門樋復元事業

担当課： 生涯学習課

1. 判定結果

事業内容を抜本的に見直す

2. 事業判定会コメント

歴史的な文化財を後世に伝えていく大切さは理解しますが、そのために多額の市費（税金）を投入することへの市民の理解をどのように得るかとのバランスが現時点だと難しいと考えます。

また、活用内容についても提案がありました。文化財全体の活用についての計画がなく、また門樋の復元方法や設置場所なども決まっておらず、明確なビジョンが見えないまま、多額な費用を投入して事業を進めることには疑問を感じます。

門樋の活用方法も含め、復元の必要性について再度検討することとし、復元をする場合にも、模型の作成やデジタル技術の活用により、全体を復元するのではなく一部に留めるなど、費用を抑える手法を検討してください。

3. 自由意見

・地域の貴重な歴史的財産を守っていこうという姿勢自体は良いことですが、多くの費用をかけて実施することが市民の総意となるのか疑問です。歴史的財産というのなら、市全体で、当該門樋の位置づけや他の文化財との関係性などを先に考えるべきだと思います。

・後世に向けて残してほしい志木の魅力ではありますが、しかしながら、復元に向けた計画については、事業のアプローチ方法など、進め方を再考し、より素晴らしい計画としてほしいです。また、市民への周知・理解をしっかりと得られるような取組をお願いします。

・全体の復元ではなく、コンパクトな形で復元の方が費用が抑えられ、市民の理解が得られるのではないのでしょうか。

・費用を抑えるため、模型の作成と実物のレンガを展示する二部構成とする方法でも良いと思います。

・宗岡の歴史・伝統を後世に伝えられるものにしてほしいです。

・復元することの重要性が見えません。重要な文化財を保管することだけを目的とするなら、別の事業に財源を投入してほしいです。復元事業を実施するのなら、もっと予算を抑えた方法を考えてもらいたいです。

・現存する他の門樋を活用して、宗岡の歴史的文化的魅力をもっと発信してほしいです。

・デジタル復元、門樋跡地として一部復元などの方法も検討してください。

・文化財の活用に向けた構想をしっかりと固めて、郷土愛の醸成とにぎわい創出につながれば良いと思います。